

「6版密封線源の基礎-第2種・第3種放射線取扱主任者のために」

正誤表

対象:平成27年3月31日発行 6版2刷(平成29年1月13日現在)

頁		誤	正
141	上から1~2行目	エネルギーを E 、相互作用する物質の原子番号を Z とすると、光電効果の断面積は Z^4/E^3 に、コンプトン効果の断面積は Z/E に、電子対生成の断面積は $Z \ln E$ に比例する	エネルギーを E_γ 、相互作用する物質の原子番号を Z とすると、光電効果の断面積は $Z^5/E_\gamma^{3.5}$ に、コンプトン効果の断面積は Z/E_γ に、電子対生成の断面積は $Z^2 \ln E_\gamma$ に比例する
161	下から7行目	また測定頻度は、3.7GBq以下の密封線源(または放射線発生装置)を固定して取り扱う場合は、6か月以内ごとであり、それ以外は1か月以内ごとである。	また測定頻度は、 <u>密封線源又は放射線発生装置を固定して取り扱う場合に取扱いの方法及び遮蔽壁や他の遮蔽物の位置が一定しているとき、下限数量の1,000倍以下の密封線源のみを取り扱うときの測定は、</u> 6か月以内ごとであり、それ以外は1か月以内ごとである。
253	下から3行目	初めて管理区域に立ち入る前の健康診断では、 <u>ハとニ</u> は医師が必要と認める場合に限る。	初めて管理区域に立ち入る前の健康診断では、 <u>ハ</u> は医師が必要と認める場合に限る。

対象:平成25年5月1日発行 6版1刷(平成29年1月13日現在)

頁		誤	正
141	上から1~2行目	エネルギーを E 、相互作用する物質の原子番号を Z とすると、光電効果の断面積は Z^4/E^3 に、コンプトン効果の断面積は Z/E に、電子対生成の断面積は $Z \ln E$ に比例する	エネルギーを E_γ 、相互作用する物質の原子番号を Z とすると、光電効果の断面積は $Z^5/E_\gamma^{3.5}$ に、コンプトン効果の断面積は Z/E_γ に、電子対生成の断面積は $Z^2 \ln E_\gamma$ に比例する
161	下から7行目	また測定頻度は、3.7GBq以下の密封線源(または放射線発生装置)を固定して取り扱う場合は、6か月以内ごとであり、それ以外は1か月以内ごとである。	また測定頻度は、 <u>密封線源又は放射線発生装置を固定して取り扱う場合に取扱いの方法及び遮蔽壁や他の遮蔽物の位置が一定しているとき、下限数量の1,000倍以下の密封線源のみを取り扱うときの測定は、</u> 6か月以内ごとであり、それ以外は1か月以内ごとである。
253	下から5行目	初めて管理区域に立ち入る前の健康診断では、 <u>イとロ</u> は医師が必要と認める場合に限る。	初めて管理区域に立ち入る前の健康診断では、 <u>ハ</u> は医師が必要と認める場合に限る。